

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402184		
法人名	医療法人 杏林堂		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	〒859-2112 長崎県南島原市布津町乙674-1 (電話) 0957-65-1711		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(H21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12 人 非常勤 人, 常勤換算 5.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 78.8 歳	最低	57 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明島整形外科医院・前川歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体に医療機関を持ち医療と介護の両面からの支援であり、入居者は身体機能の維持向上が保たれている。また、地域の多くの人々が掛かりつけ医として通院やりハビリを受けており、入居者も病院で地域との繋がりを保持している。今年度の新しい取り組みとして「幼稚園との交流・専門学校生をボランティアで受け入れる・リフト付のワゴン車の購入・ホームページ等」年々前進している。又、入居者と職員の両方に男女がいて、同姓介助を基本として日々のケアに当たっている。入居者の約半数がリハビリに通う事で、着替えをしてホーム以外の人との交流があり、情報や作品の作り方などを入手し、ホームでの生活に変化を持ち込むなど活力を感じられ、今後の進展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を改善する機会的一端と理解し、メモを取りながら真摯に受け止め受審されている。前回の改善項目(介護計画の工夫や重度化に向けた取り組み等)に積極的に取り組んでいる。評価後に改善計画シートを作成し、計画的に実施する為の目標・内容・期間を設定し、実施状況を評価することで、運営の向上を図れる取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価表を配布し、全体会議で意見を出し合い、実施している事を記述している。外部評価を受審する事で、1年間の実施状況を振り返る事が出来、自己評価を有意義に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月毎に、日程調整や案内状を出し、19時~20時の時間帯に市町村の代表を交え意見交換が実施されている。入居者の退居に伴い家族の代表が交代する事で欠席されたことがあるが、構成メンバーは確実に参加している。実習生の受け入れや地域の情報を入手する機会として活用し、運営に反映している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 1年に1回は敬老会を地域の宴会場を貸切、入居者や家族を招待(入居者は無料・家族は一部負担)して行い、触れ合う機会を設けている。また、利用料はホームに持参して頂き、出来るだけ話を聞く機会を設け努力をしている。「預かってもらっているが故に言えない」家族側の立場も考え、家族アンケートの結果を重視し、活用することが望まれる。毎月の便りを活用し、何時でも意見や要望を受け入れる事を伝えるなどの取り組みにも期待したい。また、些細な事も記録に残し、検討し運営に反映する体制の確立を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今年度は幼稚園のお遊戯会の見学に行ったり、園児たちが2月12日には訪問予定であり、新しい地域との交流が始まっている。また、母体の病院には地域の住人が受診に訪れ、入居者はリハビリ通院による、地域の人との交流を継続している。入居者の作品を文化祭へ出展したり、体験学習の受託等、可能な限り地域との交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「心も元気・身体も元気・明るく楽しく暮らしたい」として、パンフレットやホームページに載せ地域に向けアピールし、気軽に来てもらえるホームを目標として、地域との関わりを持ちながらの生活を目標としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催するカンファレンス会議や自己評価への取り組みの時に、理念のことに話して共有している。職員の中には、理念を名札の裏に書き、常に振り返りながら、日々のケアに取り入れ、入居者それぞれにあった生活に向け理念を活かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は幼稚園のお遊戯会の見学に行ったり、園児たちが2月12日には訪問予定であり、新しい地域との交流が始まっている。また、従来から母体の病院でのリハビリ通院による、地域の人との交流や文化祭への出展、体験学習の受託等、可能な限り地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布し、全体会議で意見を出し合い、実施している事を記述している。1年間の実施状況を振り返る事が出来、自己評価を有意義に活用している。前回の改善項目(計画の工夫や重度化に向けた取り組み等)に積極的に取り組んでいるが、改善計画シートの作成がなく、計画的とはいえない。		外部評価の受審後は、全体会議で話し、出来る事を積極的に取り組み、改善に向けた努力が窺える。評価後に改善計画シートを作成し、計画的に実施する為の目標・内容・期間を設定し、実施状況を評価をすることで、運営の向上を図れる取り組みを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、日程調整や案内状を出し、19時～20時の時間帯に市町村の代表を交え意見交換が実施されている。入居者の退居に伴い家族の代表が交代した時は欠席があるが、構成メンバーは確実に参加している。専門学校の実習生の受け入れや地域の情報を入手する機会として活用し、運営に反映している。		

グループホーム 明星

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは介護保険の更新に伴う手続き等で顔馴染みである。また、公的扶助を利用している入居者を市町村の担当者が訪問する事がある。今年度は運営推進会議において、市町村の担当者の紹介で、専門学校生をボランティアで受け入れ、新しい取り組みが始まっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あかるいほし便り」を作成し、写真を掲載した生活状況を報告し喜ばれている。また、Eメールやホームページにより、何時でも見れるように取り組んでいる。病院受診後は電話で報告する事もあり、出来るだけ連絡できる体制に尽力している。また、金銭は立替で、利用料と一緒に領収書を添付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回は敬老会を地域の宴会場を貸切、入居者や家族を招待(入居者は無料・家族は一部負担)して行い、触れ合う機会を設けている。また、利用料はホームに持参して頂き、出来るだけ話を聞く機会を作る事に努力をしている。しかし、昨年度の家族アンケートの活用方法が見えない。		「預かってもらっているが故に言えない」家族側の立場も考え、家族アンケートの結果を重視し、活用することが望まれる。毎月の便りを活用し、何時でも意見や要望を受け入れる事を伝えるなどの取り組みにも期待したい。また、些細な事も記録に残し、検討し運営に反映する体制の確立を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は過去1年間には殆どなく、何でも気付きが言える関係が確立しており、働きやすい職場に向け取り組んでいる。職員間で入居者の情報を共有し、変わらない介護に努め、馴染みの関係による安定した生活支援を実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、限られた人に留まらないように、交代で参加している。資格の取得に向けても協力的で、学ぶ機会に重点を置いている。研修受講後は全体会議で発表し、共有を図っている。今後は研修項目を会議録に記入し、様々な学習をバランス良く、受講予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会は休止状態であるが、隣りのホームとは徘徊者の訓練を合同でしたり、管理者の知り合いのホームと交流を行っている。また、他ホームや病院を交えたスポーツ大会(半年間位に及ぶ)に参加する事で仲間も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院や知り合いの紹介により入居希望者を把握し、ホームの説明や見学の受け入れ、時には自宅を訪問し家族の意見を積極的に聞きながら入居に至っている。入居者には自然体で接し、どの職員も変わらないサービスをするように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は比較的若い人が多く、経験を重ねた入居者から洗濯の仕方や食事に関する事等、教えて頂くことは多々あり、一緒に過ごす家族として支え合いながら生活している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者とはたくさん関わり、話しをする事で理解を深めると同時に、入居者台帳に家族の状況・過去や現在の状況・既往症を詳細に記述し、新しい状況変化は追加記入しながら、職員間で共有し、生活歴を基に支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の意向を踏まえ、毎月全体会議で入居者一人ひとりのカンファレンスを行い、職員の意見を参考にした計画を作成している。身体や心の面の両面を考慮して、たくさんではなく、今必要な事を重視した、実践可能な計画を作成し、家族の理解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月でアセスメント(MDSチェック表で問題領域一覧表を作成)・3ヶ月でモニタリングシート・毎月のカンファレンスにより、現状に即した計画を作成している。また、状態の変化時にはその都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向に伴い、医療連携・リハビリの通院・看取りに伴う家族の支援の一環としての家族の宿泊・個別誕生会・宴会場を貸切った敬老会等、状況変化を加味し、必要に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であり、必要に応じて、他の医療機関を紹介している。院長とは定期連絡を取りながら、入居者の病状の管理を行い、安心した支援が来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで2度の看取りを経験している。入居者の状態の変化に伴い、家族や病院と連携を取りながら関わりの方向を決めている。職員は経験を重ねる事で、関わりのあり方を学習し、チームによる支援に向かっている。今後、話し合いを繰り返す事で一丸となつての看取りの支援が期待できる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への入室には声掛けを心がけ、入浴や排泄は同姓介助を基本としている。契約書に利用者の権利を位置づけ、プライバシーを保ち、尊厳を維持した支援や守秘義務に努める事を明確にしている。今後便りに載せる写真の同意に関して検討予定である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、起床・朝食はその人の意向を大切にしており、一元化する事無く、生活支援をしている。本人の様子を見守りながら残存機能を活かした自由な生活に向け、それぞれを主人公にした生活支援を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は手伝いをする人は少なかったが、下膳や食器洗いをする入居者を見て他の入居者も率先してするようになってきた。好みを取り入れ、嫌いな物は代替をして美味しい物を楽しく食べている。職員の中で夜勤者は夕食と朝食を一緒に食べるが、昼食は持参して同じ食卓で食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3～4回を目安に支援している。入居者の楽しみの一つであることを理解して、同性介助を基本として支援している。現在は色々な工夫により入浴拒否者はなく、努力の成果である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力を理解し、最大限に活用できるように支援しており、モップでの掃除や食器洗いや、元気な入居者が他の人の行動を見守り、職員に教える等を役割としている。また、新聞・読書・ジグソーパズル・折り紙・気晴らしで弁当を持ってのドライブ等を楽しみにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今年度はホーム専用のワゴン車(リフト付で車椅子対応)を購入し、気軽な外出支援が可能になった。花見・買い物・催し物の見物・散歩・リハビリ・宴会場での敬老会・ホームの内庭の芝生でのお茶等、出来るだけ外出を取り入れ支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在の入居者は落ち着いており、徘徊に繋がる人はいないが、玄関にはセンサーがあり、玄関の出入り時にはチャイムが鳴っている。隣のホームと一緒に徘徊者の訓練を実施し、非常時を視野に入れながら、施錠をしない支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いで、消火・避難訓練を実施している。地震に関しては、訓練時に消防署員に相談して指示を仰ぎ、取り組んでいる。毎回の訓練ではテーマを持ち、経験が短い職員を中心に夜間を想定して実施している。備蓄や持ち出し品は今後の検討項目であるが、現時点では夜勤者が1名体制であることが重要な問題点である。		現在2ユニットを1名の職員で夜勤をしている。何も無くても多忙であり、大変と思えるが、万が一事故や急変や災害が発生した時を考慮して、通報・入居者の見守りができる2人での夜勤体制を期待したい。又、災害時の備蓄や持ち出し品を職員間で話し合い、何時何があっても入居者が生活できる最低限の準備を期待したい。

グループホーム 明星

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体の病院の栄養士のメニューをアレンジして美味しい物をその人の状態に合わせて(刻み・トロミ・常食・介護用の食器使用)提供している。食事や水分の摂取量は記録に残し、不足にならないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周辺は広々とした畑に囲まれ、日当たりが良く静かである。市の文化祭に出展した作品を飾りホーム内が明るく感じる。食堂やリビング以外の廊下にも椅子を置き、入居者の居場所の確保が来ている。内庭の広い芝生の場所はお茶を楽しむだけでなく、クリスマスには大きなもみの木に飾り付けをして、入居者と楽しんでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室から、有明海と雲仙岳が見え窓からの景色を楽しむ事が出来る。入居者が作成した作品を多く飾り、華やかさを感じる。又、テレビ・ベッド・冷蔵庫・衣類用のコンテナ等、生活に必要な品を持ち込み、個性的な居室作りが来ている。		